Kyoto City Child Rearing Support Center Kodomomiraikan
京都市子育て支援総合センター
こどもみらい館
研究・研修だより
かがやき
Vol45.
2017
3月

平成29年度 共同機構研修計画（29年4月～29年11月）

1　研修のねらい

乳幼児期一人ひとりの豊かな育ちを保障する保育者のかかわりや子どもの育ちを理解し，保育の振り返りをすることで改めて保育を見直すことにより，保育の質の向上と今日的な課題を見据えた研修とする。

29年度のポイント

- 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育･保育要領の改訂を踏まえて
- 乳児保育から小学校接続まで，それぞれの時期に大切にしたい育ちと育ちの連続性
- 公開保育を伴う研修の新規実施

2　研修予定

日　時	講　座　名　・　内　容　等	講　師　名
4月26日（水 ） 15:00～17:00	**今，本当に子どもが必要としているものは何か** 「非認知的スキル」等，乳幼児期の心の育ちの重要性に注目が集まっている。誰もが「子どもの心の育ちは大切だ」と認めているが，果たしてそのように保育が実践されているだろうか。子どもの心の育ちとそのための保育を本当に子どもが必要としているものという視点で確認する。	**鯨岡 峻** 京都大学 名誉教授
5月26日（金） 15:00～17:00	**幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿** 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂におけるポイントについて学び，乳幼児期に大切にしたい子どもの育ちと保育について考える。	**津金 美智子** 名古屋学芸大学 教授
7月10日（月） 15:00～17:00	**乳幼児期に育てておきたいこと，大事にしたいこと** 私たちが，子どもの中からわき立つ好奇心や探究心に関心を向け，子どもが求めていることを感じ取ることや，感動を分かち合える子どもとの関係作りをしていくことを保育実践の紹介から学ぶ。	**鈴木 眞廣** 千葉県富津市 和光保育園 園長
9月6日（水） 15:00～17:00	**保育園(所)・幼稚園・認定こども園と小学校が何を繋げるのか** 本当に子どもにとって意味のある連携や接続とはどのようなものなのか。「入学してくる子どものこれまでの育ちを知ることを小学校にプラスになる」という考えの下取り組んでこられた実践と，小学校が本当に求めている乳幼児期の育ちについて知り，自園(所)のねらいや保育を見直す。	**岸田 蘭子** 京都市立高倉小学校 校長
10月19日（木 ） 15:00～17:00	**乳児期の保育における大人のかかわり** 身体的発達や自我の芽生え，社会性の芽生えである心の発達が目覚しい乳児期の保育における大人のかかわりについて学ぶ。幼稚園での子育て支援事業の広がり，小規模保育事業所の増加など乳児保育について学びを深める。	**長瀬 美子** 大阪大谷大学 教授

夜間講座

11月1日（水） 18:30～20:30	**困り感を持つ子どもへの作業療法支援** どんな子どもの行動にも必ず思いがある。私たち保育者はありのままの姿を認め，その思いに寄り添い理解することが求められている。日常の生活や遊びの中にある子どもの困り感を知り，子どもの理解に繋げ，園所での保育における気になる子への具体的な支援を学ぶ。	**灘 裕介** 有限会社あーと・ねっと 作業療法士

エピソード検討会(対象：保育園(所)・幼稚園・認定こども園・小学校の先生)

7月26日（水） 15:00～17:00	**子どもの心の育ちに目を向けて，エピソードで保育を考えてみませんか** エピソードを用いて，子どもの心の育ちやそれに関わる保育者の思いをグループで語り合いながら，心を育てる保育を学ぶ機会とする。	**大倉 得史** 京都大学大学院 准教授

公開保育(対象：保育園(所)・幼稚園・認定こども園において園(所)内研修を担う先生)

6月7日（水） 12:30～17:00	**保育を見て学ぼう** 京都教育大学附属幼稚園の通常の保育を参観し，検討することを通して，様々な園(所)の保育者と共に保育の質を探究し，共に高め合う。また，事前のオリエンテーションや検討会の進め方等から，園(所)内研修の充実に活かす。	**古賀 松香** 京都教育大学 准教授

特別研修：保健医療課・児童家庭課と合同
(対象：保育園（所）・幼稚園・認定こども園・小規模保育事業所の先生・子ども支援センター職員，保健センター等保健師)

9月29日(金) 14:30～16:30	**子どもの貧困と子育て支援** 子どもは特別な支援を必要としているのではなく，普通にご飯を食べ会話し，安心して眠ることを望んでいる。生活に安心感があって初めて将来に夢や希望が持てる。相対的貧困について市内の現状を知り，それらの親子への支援について学ぶ。	**幸重 忠孝** 幸重社会福祉士事務所 代表 社会福祉士

＊その他，「教育委員会 保・幼・小・中連携推進事業」（学校指導課初等教育担当）との合同研修

平成28年度　共同機構研修「エピソード検討会」　　**平成２８年１０月２６日（水）**

子どもの心の育ちに目を向けて，エピソードで保育を考えてみませんか

講師　大倉 得史　京都大学大学院准教授

（共催）京都市私立幼稚園協会

エピソード記述法とは，保育現場の何気ないエピソードを取り上げ，それについて検討会を行うものです。これまでのエピソード記録は，活動の記録や子どもたちの能力発達の記録でしたが，対照的にエピソード記述は，日常の何気ない1コマの人と人との気持ちの交流を詳細に描写することで，心を育てる保育を実践していくための方法です。子どもの心の動きを中心に描くことが，エピソード記述であり，目に見えにくい「心」を取り出して可視化し，みんなで議論していこうというのがエピソード検討会です。

さらに，エピソード記述がこれまでと大きく違う点は保育者自身が「私」として出てくることです。読み手はその「私」を追体験して気持ちを共有し，「自分だったら」とその立場からもう一度保育を考えます。また，書き手は，自分が何を考えて保育しているか再認識できます。そして，保育者同士で子どもの心の動きと保育者の心の動きについて考えながら，実践についての突っ込んだ議論をするのに大変有効です。保育の中で子どもとの心の交流を描くことが，ひいては子どもの心を育てることにつながっていくということです。

検討会の意義は，子どもの体験世界，家庭生活と園での姿のつながり，子どもの生育史と「いま，ここ」の姿のつながり，そして，保育者の対応の意味について皆で考えることです。考えたことに正解はありませんが，結果として，意見を出し合うことで子どもへの見方が柔軟になり，子どもの心の育ちについての洞察や，個々の保育者の保育観が深まります。

「こういうことかな，それともこうかな」と皆で想像力を広げ，一人一人が多角的で柔軟な見方を行い，保育観を深めあって欲しいと思います。「何が正しく，何が間違いか」と結論を閉じるのではなく，子どもの心や，保育者の対応について「こんなことが起こっているのかも」と皆で可能性を開いていくようなエピソード検討会を是非実践してほしいと思います。

講義の詳細は，要録ページをご覧ください。要録ページへ

平成28年度　第6回 共同機構研修　　**平成２８年１１月１０日（木）**

子どもを慈しみ育てよう！～乳幼児期から大学生まで関わって～

講師　西林 幸三郎　大阪芸術大学教授

（共催）京都市私立幼稚園協会

これまでに務めてきた小学校長，教育センター教育相談室長，大津市いじめ事件に関する第三者調査委員会委員，そして現在関わっている大学での教員養成とその附属幼稚園長，児童虐待防止協会執行理事などの経験を通し，乳幼児期から思春期，そしてそれ以降にも大切になるものについて考えていきたいと思います。

一番大切なことは，子どもに「自分はなかなかやるもんだ」「すばらしい人間なんだ」という自尊感情を育てることだと考えています。そのためには，乳幼児期に十分に愛情を受けて育てられることが大切です。子どもにいっぱい「好きだ」と伝えてください。「好き」という言葉は，「あなたの存在を認めているよ」という魔法の言葉です。そこで培った基本的安心感や信頼感が，他人に対する基本的信頼感に繋がります。また，徹底してこどもたちの安心安全が守られる場がつくられていることが必要です。そして，子どもを理解するためには，事象だけを取り上げて収めてしまわず，その子の内面をきちんと把握し，その内面に触れるような関わりをしていってください。

子どもが大きくなっても同じです。非行少年の指導法で悩んでいるときに，「そんなん簡単や，抱っこしたったらええ」と教えていただいたことがあります。小さな子どものように抱きかかえることはできませんが，心理的抱っこ，その子を認めるということです。そして，その子に対してどれだけ向き合うか，寄り添い聞いていくかで子どもへの響は違います。例えいじめているという事象があっても，一つひとつ丁寧に聞いていくことで，子ども自身が自分のしたことに対して答えを見つけていきます。どのように非行に走っている子どもでも，その自分自身をよしとは思っていません。どの子もいい子に育っていきたいと思っています。子どもを慈しみ，愛情たっぷりに育てていくことが大切なのだと切に思います。今大学で「先生になる自信がない」という学生に伝えていることがあります。「あなたはこれまでこうやって大きくなってきたことを振り返れば，どれだけあなたの家族や周りの人たちが，あなたを大事に育ててきたかということが分かると思う。そのことが分かるということを，同じようにあなた方が向き合おうとする子どもたちに伝えてあげれば良いのです。子ども理解は難しいものではありません」子どもの成長を見守る教師を育てたいと思っています。

講義の詳細は，要録ページをご覧ください。要録ページへ

平成28年度　共同機構研修 夜間講座　　**平成２８年１１月２５日（金）**

発達障害のある子を豊かに育む環境とは

講師　　小枝 達也　　国立成育医療研究センター こころの診療部部長

（共催）京都市保育園連盟

今，厚生労働省が進めている「健やか親子21」における重点課題は，「妊娠期からの児童虐待防止対策」と「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」です。育てにくさの要因としては，子どもに起因するものばかりではなく，親，子どもと親の関係性，親子を取り巻く環境という4つの視点が挙げられます。今，子育て支援では，「子育て不安」から「育児困難感」の軽減へと考え方がシフトしています。親の困りに思いを馳せ，寄り添う支援を大切にしてください。「自分が母親足りえているのだろうか」と疑問を感じながら過ごすのは非常につらいものです。そのような母親には「お母さん，それでいいんだよ」という一言がとても大事です。日々の生活を一緒に見ている保育者の方がぜひ伝えてください。

子どもの障害特性に対する理解や気づきのないことで，いわゆる定型発達の子どもと同じような指導を行い，その効果が得られないために叱責等してしまう行為は，子どもに心理的虐待体験を持たせてしまう可能性があります。また，発達障害の子どもは，学習上の躓きや生活上の問題を本人の努力不足や親の養育の問題と解釈されがちですが，そうではなく，持って生まれた脳の機能の発達の問題です。正しく理解し，適切に支援することで子どもは伸びます。発達障害の子どもにとって，診断名をつけ病院で薬をもらって治療するよりも，普段の生活を変えることの方が有益だと考えています。普段の生活を見ておられる皆さんこそが，実は大いなる治療者であると思っています。ですから普段の生活を変える工夫こそが，子どもたちにとって全てなのです。子どもたちに添った保育をしてくださる方が一人でも増えることを願っています。

講義の詳細は，要録ページをご覧ください。要録ページへ

第４期研究プロジェクト　＜合同研究会＞

平成28年6月第4期研究プロジェクトとして2つの研究プロジェクトを立ち上げ研究を進めています。

子どもの心の育ちの連続性研究プロジェクトでは，メンバーに小学校の先生にもご参加いただき，子どもの心の育ちについてエピソードを用いて一緒に議論を重ねています。幼児期に大事に育てている子どもの心を就学後へつないでいくための視点をメンバーみんなで共有し，現在，その発信方法を検討しています。

子育て支援研究プロジェクトでは，市内のさまざまな支援施設を訪問し，支援者の方のお話や，実際の親子と支援者の間で起こったエピソードを検討することで，私たち支援者に，親子へのどのような寄り添いが求められているのかを話し合っているところです。

そして，先月，2月10日（金）に合同研究会を開催しそれぞれの研究会での気付きを互いに報告し合いました。

子どもの心の育ちにおいて大切なのは，何かができたという自信ではなく，できる，できない全てのその子のありのままの姿を認める保育者のかかわりによって，子どもの中に自分自身を肯定する気持ちが育ち，心の育ちにつながっていくこと，また，保護者に対しても子どものありのままを大事に思えるように支援者が支え，保護者自身も，まるでエルサのようにありのままの自分が素敵だと感じられるような，親子の気持ちに寄り添った子育て支援を行うことの大事さが報告されました。

これらの点も含め，高倉小学校の岸田蘭子校長より，それぞれの視点から進めてきた研究ではあるが，子どもを真ん中にして，それを囲む大人たちの大切にするべきことが同じであると，まとめていただきました。

平成29年度も引き続き研究を進め，それぞれの研究プロジェクトでの気付きを，市内の多くの就学前施設や小学校へ発信し，大切な視点が共有される方法を探っていく予定です。

共同機構研修会のＤＶＤを貸出しています

平成２８年度の共同機構研修会も無事終わりました。各園（所）お忙しい中，毎回の研修に御参加いただきましてありがとうございました。研修に参加していただきました先生方から伝達研修をしていただいていることと思いますが，加えまして，こどもみらい館では，講演内容のＤＶＤ（ＶＨＳテープも含む）を貸出しております。一年間の保育の総まとめをするこの時期に，自園の保育を振り返られ，来年度に向けての課題も明確になったのではないでしょうか。来年の研修の際には，共同機構研修のＤＶＤを使って研修をしませんか。
貸出の具体的な方法はこどもみらい館ＨＰをご覧ください。

28年度

講師名	（講演当時）	テーマ
鯨岡　峻さん	京都大学名誉教授	あそびを通して保育を考える
大倉　得史さん	京都大学大学院准教授	気持ちに寄り添う保護者支援とは
長瀬　美子さん	大阪大谷大学教授	幼児期の保育における大人のかかわり
古賀　松香さん	京都教育大学准教授	自ら学ぶ楽しさをつなげる ～小学校と一貫性のある教育課程の編成を目指して～
北川　恵さん	甲南大学教授	子どもの安心基地になるために ～アタッチメントとは～
大倉　得史さん	京都大学大学院准教授	（エピソード検討会） 子どもの心の育ちに目を向けて，エピソードで保育を考えてみませんか

27年度

講師名	（講演当時）	テーマ
鯨岡　峻さん	中京大学客員教授	「養護の働き」と「教育の働き」は交叉している
大倉　得史さん	京都大学大学院准教授	エピソード検討会の役割 ～園（所）内研修の充実に向けて～
北野　幸子さん	神戸大学大学院准教授	乳幼児期の遊びと保育者の専門性
倉石　哲也さん	武庫川女子大学教授	保護者理解と支援 ～様々な配慮を必要とする保護者の理解と支援～
森﨑　和代さん	Felien	保護者対応のポイントを学ぼう
鯨岡　峻さん	中京大学客員教授	〈エピソード検討会〉 子どもの心の育ちに目を向けて，エピソードで保育を考えてみませんか ～保育園（所）・幼稚園の垣根をこえてつながろう～
小枝　達也さん	国立成育医療研究センター こころの診療部部長	気になる子どもに寄り添う保育とは
西川　正晃さん	大垣女子短期大学教授	学びをつなぐ －保幼と小学校をつなぐ－

26年度

講師名	（講演当時）	テーマ
鯨岡　峻さん	中京大学教授	子どもの心に目を向ける保育の在り方 ～子ども・子育て会議・これからどうなる？～
弓削マリ子さん	花ノ木医療福祉センター 日本小児精神神経学会認定医	集団が苦手な子どもへの関わり方
大倉　得史さん	京都大学大学院准教授	主体としての心を育てる保育 ～今，大切にしたい保育の質～
森﨑　和代さん	Felien	園児のその先の育ちを支えるために ～今，保育者にできること～
倉石　哲也さん	武庫川女子大学教授	虐待の現状と予防 ～メカニズムの理解と対応～
竹田　契一さん	大阪医科大学LDセンター顧問	乳幼児期発達障害の基礎理解と具体的な関わり方
木下　光二さん	鳴門教育大学教授	子どもの育ちをつなげる接続の在り方 ～遊びの中の育ちや学びの理論と実践～
橋本　真紀さん	関西学院大学教授	保育園(所)・幼稚園における他機関連携 ～予防的支援の観点から～

京都はぐくみ憲章

子どもを育む喜びを感じ，
親も育ち学べる取組を進めます。
（京都はぐくみ憲章より）

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

発行日　平成29年3月22日
発行者　京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883
中京区間之町通竹屋町下る楠町601番地の1
Tel (075)254-5001　Fax(075)212-9909
URL　http://www.kodomomirai.or.jp